

基礎学力とは何か
－栃木刑務所で考える－

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：開倫塾は、刑務所に講師を派遣しているそうですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。栃木市教育委員会を通じて講師派遣の要請があり、栃木県栃木市にある女性受刑者のみを受け入れる栃木刑務所に、基礎学力養成のため今年の2月から毎週1回2時間(刑務官との打ち合わせ等を含めると3時間)講師を派遣しております。

Q：栃木刑務所では、なぜ講師の派遣を要請したのでしょうか。

A：800名以上の受刑者の中には、中学校や高校等は卒業しているけれども、読み書きや基礎的な計算能力の不十分な人が何人かおり、仮釈放等で社会に出てから、基礎学力不足のために社会復帰が困難と考えられる人もいるためです。

Q：どういうことですか。

A：現代は、変化のスピードが激しい超「知識社会」ですので、生活や仕事に必要な情報が文字によってどんどん提供され続けます。片仮名や簡単な英語を中心とする外国語の読み書きが、瞬間瞬間で素早くできないと、生活や仕事に支障が生じる場合も多いと思われれます。

また、日常生活や仕事では、基礎的な計算能力が求められる場合が多く、数の概念を持ち、ある程度の計算ができないと、社会で生活する上で支障が出ると思われれます。

また、受刑者の中には高齢者の方も多く、刑務所を出た後に、年金や、場合によっては生活保護等の申請をしなければならないこともあります。役所の人は親切に対応してくれるでしょうが、読み書きが困難であると、申請等に支障をきたす場合も考えられれます。

読み書きや基礎的な計算能力が身につけていないことが原因の一つとなって、社会に適応できず、犯罪を再度行い、刑務所に戻る人も存在するようです。これは、本人のためにもならず、また、社会防衛上も大問題です。日本全国の刑務所をはじめとするどこの矯正(きょうせい)施設も、定員をかなり上回る過剰収容のようです。国家財政が厳しい折に、膨大な税金を投じて、十億単位、場合によっては百億単位の刑務所を作り続けることは大問題であります。

何よりも、犯罪に巻き込まれる被害者を出さないために、社会総ぐるみで再犯防止の取り組みをせねばならないと私は考えます。

Q：具体的には、どのような内容を教えているのですか。

A：私と、私の代理としてコーディネーターを務める塾長室室長(女性)と、実際の講師役を引き受けてくれた開倫塾のベテランの講師2名(いずれも女性)が、刑務所長及び教育担当の刑務官と詳細な打ち合わせを1月中に3回行い、カリキュラムを考えました。

栃木刑務所としては初めてのことなので(日本全国の刑務所でも、外部から講師を呼んで定期的に基礎学力の指導をすることは極めて珍しいようです。)最初は6名の受刑者に、当方も2名の講

師を派遣して指導することにしました。

2月に入り、毎週2時間の授業がスタート。初回の開講式には私も出席し、「音読練習、書き取り練習、計算練習で学力を身につけよう。本と新聞は毎日読もう。」と激励。「鉛筆の持ち方」からスタートしました。

各自の学力に応じた教材を準備し、各自の「理解」や「定着」の度合いに応じて、刑務官と話し合いながら学習のスピードを調整しています。

Q：1つのグループに対し、どのくらいの期間教えるのですか。

A：基礎学力が不十分な受刑者はまだまだいるので、最初のグループはとりあえず2か月間教えるようにと、刑務所から要請がありました。期間をどのくらいにするかは、教育の成果を観察しながら考えるとのことです。

Q：授業の様子はどうですか。

A：初めは緊張していたようですが、その日にやったことで分からないところはないように、分からないことがあったら遠慮しないで質問するようにとの方針でやっていますので、かなりの成果が期待できそうです。

受講者の年齢が高いためか、また、刑務官が常時付き添っているためか、受講態度は極めて真面目で、全員が一所懸命に学習課題に取り組んでいます。

Q：講師の先生方はどうですか。

A：大人、それも受刑者の方々に教えるのは初めてなので、最初は緊張なさったようです。しかし、刑務所長や刑務官の受刑者をどうにかしてやらねばという社会的使命感と熱心さ、受講者一人ひとりのひたむきさを実感し、教えさせて頂いているようです。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお考え頂きたいことはありますか。

A：全国の刑務所や少年院などの矯正施設には、基礎学力が不十分な方々が数多く存在し、社会復帰の際に障害になる場合も多いようです。仮釈放され、保護観察中の方の中にも基礎学力の不十分な方が多いようです。毎日の業務でお忙しいとは存じますが、是非とも社会貢献活動の一環として、そのような方々への教育にも御参加頂ければ幸いです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：吉田松陰先生は、獄中で教育をなさいました。マルコム X は、刑務所の中での勉強で社会のリーダーとしての学力を身につけたとも言われております。Education For All(万人に教育を)の国連やユネスコの考えは、刑務所等でも生かされるべきと私は考えます。

最後に、皆様にお薦めする本を一冊御紹介します。「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパの共通枠」(吉島茂・大橋理枝他訳)朝日出版社 2004 年刊です。

カナダを含む各国の専門家たちが、30 年以上の議論を積み上げた総まとめとして、ヨーロッパにおける外国語教育についての参照枠を考えたものです。ヨーロッパの人々の英語によるコミュニケーション能力がこの 10 年で飛躍的に上がったのも、この参照枠の影響と私は考えます。是非御一読の上、御導入を。